

おかげさまで88周年／新連載！スパイスで減塩



アベクミコさんの
初夏のタイ料理

令和5年6月1日発行 第89巻第6号 昭和21年6月10日第3種郵便物認可 毎月1回1日発行

6

2023
June

栄養と料理

NUTRITION & COOKERY

現代を
健康に生きる

特別編

佐々木敏が
ズバリ読む
栄養データ
トルコ
イスタンブール



食べて動いて

認知症

を防ぐ！

ウチナベマキさんの



雨の日の 乾物おかず

食と健康の 仕事人

第126回

麻雀やカードゲームで 介護に選択肢を増やす

日本シニアライフ株式会社代表取締役社長 森 薫さん

ラスベガスの「カジノ」をイメージしたデイサービス（通所介護）を展開している日本シニアライフの森薫さん。カジノに特化した型破りともいえる施設を作った思いや具体的な取り組みを伺った。



森薫さんが「ラスベガス」を立ち上げたのは10年前。デイサービスに麻雀やブラックジャックなどのゲーム要素を取り入れ、利用者が楽しく通い続けられるくふうをしている。



取材で伺ったのは2014年にできた横浜市都筑区にある施設で、76名が通う。直営店が8店、加盟店が14店で、全国に22拠点ある（2023年2月現在）。



デイサービスの送迎車は白が一般的だが、「ラスベガス」では黒のワンボックスカーを採用。これも「介護の常識」を打ち破るアイデアの一つ。「Las Vegas」のロゴは金色。

体操の時間は一日合計で35分間



ラスベガスの一日は全員で行なう体操からスタート。すわりっぱなしを防ぐため、1時間に1回、全員で体操する。



体操に参加すると、施設内でのゲームなどに使える擬似紙幣がもらえる。楽しく通ってもらうくふうの一つ。

利用者にいちばん人気があるのは麻雀。スタッフは無線機をつけて、ゲームに参加しながらフロア全体に気を配っている。

しかたなく通う施設から
楽しく通える居場所へ

現在22店舗を展開する「ラスベガス」は、麻雀、パチンコ、ブラックジャックなどを楽しみながら一日を過ごすカジノに特化したデイサービスだ。重厚なドアが開くと、光るパチンコ台、雀卓、カジノテーブルが見える。遊戯場らしいシックな内装に、きらびやかな照明で非日常的な演出がされている。介護施設としては異色の存在だが、一般的なデイサービスと同様、家に閉じこもりがちな高齢者の楽しみや交流の場として機能し、家族の介護負担の軽減などのために利用されている。

「ラスベガス」を立ち上げた森薫さんは、長らくデイサービスの運営に携わる中で「家族に迷惑を

かけたくないからしかたなく通っている女性」や「手遊びや風船パレーといった定番のレクリエーションに恥ずかしくて参加できない男性」がいるという「デイサービスのミスマッチ」に悩んできた。かつて、あるレクリエーションで男性のプライドを傷つけてしまい、「こんなところに二度とくるか」と憤慨され、利用中止になるという苦い経験もした。「介護の常識」に疑問をいだくことも多かったという。

12年前、森さんは新規事業のヒントを得るためにアメリカを訪れ、「サンシテイ」と呼ばれる55歳以上の人たちのために造られた街を視察した。自立した生活を送る高齢者と、「お客さま」に選ばれるための努力を惜しまないスーパーマーケットなどを目のあたりにし

行きたくないのに通う

デイサービスから、

選ばれる存在になるために。

て衝撃を受け、「自分たちは既存の介護保険制度に甘えている部分もあるのではないか」と気づかされた。

「アメリカ視察で本場ラスベガスのカジノに行き、スケールの大きさに圧倒されました。カードゲームで大負けし、打ちひしがれて周囲を見渡すと杖をついた高齢者が生き生きとした表情でカジノでゲームに興じていたのです。アメリカの高齢者は、自分の意思で人生を決めているという印象を受けました。ここからヒントを得て、会社が手がける介護事業の一部をカジノに特化したデイサービスに変えることで、介護の常識を打ち破り、利用者さまもご家族も、スタッフも喜びを感じる介護事業が生まれるのではないかと考えたんです」とふり返る。

愛好家が多い麻雀は
キラコンテンツ

麻雀やカードゲームを介護サービスとして提供することに心配の声が寄せられることもあるが、ケアマネジャーからは、「デイサー

